

## 進捗状況の概要

### 1 全学部共通の入学受け入れ方針(AP)、教育課程編成・実施の方針(CP)、学位授与の方針(DP)の策定

既存の全学部共通の学位授与方針(DP)に基づく人材育成を目指し、各委員会において、全学部共通の入学受け入れ方針(AP)、教育課程編成・実施の方針(CP)について協議し、最終的には、学内の最高意思決定機関である、教育研究審議会において、全学的な AP・CP・DP を体系的に整備した。

### 2 シラバス様式の整備

本学の電子シラバスは、学生に対して「事前・事後学修」を明確に指示する設定になっていなかったため、シラバスの仕様を変更するための協議を行い、次年度にシステム開発を実施するための予算措置を行った。

また、システム開発に間に合わない平成28年度シラバスにおいては、現行様式の「履修上の注意」の欄に「事前・事後学修」の内容を記載するように、全教員に周知した。

### 3 学修行動調査の実施

調査対象：全学部・全学科の学生を対象にサンプル的に実施(全体の20.9%)。

#### 【授業外学修時間の調査】

7.02時間/週という調査結果が導き出された。

#### 【授業満足率】

全体では、満足とやや満足で45%という結果となった。

### 4 実践型教育の多面評価及び社会波及効果の指標及び測定方法の設定

#### 【実践型教育の多面評価の指標開発とその測定】

実践型教育活動における学生の成長や成果を捉える指標を開発した。また、その指標を使用し、国際環境工学部生(1年次生のみ)、地域創生学群生、地域共生教育センターでの活動参加学生に対して調査した。

#### 【実践型教育における社会波及効果の指標開発】

本学の実践型教育活動がもたらす社会波及効果を測定する上で、社会波及効果の定義について協議し、「北九州市立大学における実践型教育活動が、北九州市の地域にどのような影響や効果を与えているかを定量的に測定すること」と位置づけ、3階層による測定手法を導入する。

I 協働者 学生と共にプロジェクト活動する人や地域の受入れ団体等。

II 参加者 そのプロジェクトへの一般参加者。

III 一般の方 市内在住の一般の方(プロジェクト活動の認知有無に関係なし)

### 5 教育ポートフォリオシステムの開発

オープンソースソフトウェア「mahara」を活用したシステム開発を実施した。

《北九大教育ポートフォリオシステムの特徴》

- ・学修成果の可視化機能
- ・学修成果に関する省察機能
- ・実践型教育活動記録機能
- ・組織単位での教育情報の記録・省察機能

### 6 APフォーラムの開催

『大学教育再生加速プログラムフォーラム -地域連携教育における「経験」と「学修」-』の開催。

■期 日 平成28年1月23日(土)

■会 場 北九州市立商工貿易会館

■参加者 関係者・本学内外の教育機関関係者など158名

■講演 早稲田大学 岩井雪乃准教授による『体験を学びに変える』